

「tovo™」について

「tovo/トヴォ」は東日本大震災によって、親を失った子どもたちを、青森から支援するプロジェクトです。

チャリティーグッズを制作・販売し、その経費を除いた全ての収益を、長期的な子どもたちの心のケアの為、あしなが育英会へ継続的に寄付し、青森から「あなたがたのそばにいつもいますよ」と伝え続けます。

おかげさまで、**2011年6月から2018年10月現在までの総寄付金は「¥7,059,342」となりました。**10年間（2011年6月～2021年6月まで）の活動を目標にしています。引き続きのご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。

チャリティー缶バッジなどのお取扱店 (2018.12 現在)

【青森市】

A-Factory/アトリエカヌー/もぐらや
oppen plaza sora/oppen plaza sena/CAFE 0371/
カフェ・デ・ジターヌ (古川店)

【弘前市】

ホームワークス4th/津軽工房社/
バンブーフォレスト/
中国料理豪華楼/Garret

【五所川原市】

タイムスライス

【黒石市】

木田理容所

【七戸町】

TBT英会話教室

【東京都 (杉並区)】

大怪店

【岡山県岡山市】

レストラン Mint

「AA」ヘヴィーキャンバス スイッチング トートバッグ

なぜか海外の方にも人気のAAデザイン
のキャンバス トートバッグ。プリント
部分はフェルト生地。同デザインの
ステッカーもあるゾ!



そら天狗も河童も赤いです。



tovo初! チャリティーアップルジュース!

2018年11月30日(金)～12月1日(土)
の2日間、午前10時(予定)から夕方まで、
東京都飯田橋の青森県アンテナショッ
プ「あおり北彩館 (東京都千代田区
富士見2-3-11 青森県会館1階)」に
て、tovoのりんごジュース(青森市浪岡
産りんご使用)を販売いたします。今回
だけの特別ラベル! 数量限定です! 宣
しく願います!

※フリーペーパー配布協力店の青森市
桜川「miageru」さんでも販売予定!

フリーペーパー「tovo plus™」



「tovo plus」は、tovoの発行
する月刊のフリーペーパーで
す。月に1度、青森県内に住む
ご家族のお話を伺い、311当時
の様子、それ以降の考え方や
生活の変化を時間の経過と共
に記し続けています。100号、
100ヶ月、100家族が目標です。

おかげさまで、残り20号を切りました。毎月のご
支援に深く感謝申し上げます。

※1年間 (12号) の定期購読 (1,800円) を承ります。



「ブックログのペーパー」にて PDF 配信中!

<http://p.booklog.jp/users/tovo2011>

フリーペーパー「tovo plus™」配布協力店

【青森市】

A-Factory/アピオあおり/アトリエカヌー/
oppen plaza sora/oppen plaza sena/OOLJEE/
カフェ・デ・ジターヌ/CAFE0371/肴ダイニング心/
SUBLIME/ヒーリングサロンLULU/ふたば写真館/
miageru/もぐらや/レストラン Tera

【弘前市】

Garret/弦や/太平洋画房/chicori/バンブーフォレスト
弘前市役所/まちなか情報センター

【八戸市】

Saule Branche Shinchō

【五所川原市】

むすぶカフェ えいぶる

【つがる市】

HMVイオンモールつがる柏

【黒石市】

おかしのおくら/木田理容所/津軽黒石こみせ駅

【七戸町】

TBT英会話教室

【山形県】

(有)熊谷伊兵治ナメコ生産所 くまちゃんなめこ

【福島県】

田村市テレワークセンター テラス石森

【東京都】

Only Free Paper/RE:BIRTH STUDIO/大怪店

【大阪府】

はっち

【岡山県】

ブックランドあきば岡山高島店/レストラン Mint

【広島県】

繁々-tunatuna-

募集中

10年を目標にしたtovoの活動も早いもので、
解散まで残り2年半ほどとなりました。残りの期
間の中で、たま～に一緒に活動してくれる方を
いつでも募集中です。お気軽にご連絡ください。

トヴォの最新情報は以下で更新中です。

tovo2011.com SHOP shop.tovo2011.com @tovo2011

https://www.facebook.com/tovo2011 @tovo2011

【発行】 代表: 小山田 和正 (email: info@tovo2011.com)

住所: 〒037-0056 青森県五所川原市末広町14-1

表紙【モデル】 赤石 嘉寿貴【撮影】 工藤 文昭



www.tovo2011.com

TAKE FREE
Vol.19 (DEC.2018)



ALWAYS
WITH YOU



今年も、 トヴォから3人目の あしなが育英会 ファシリテーターが 誕生しました。

2016年より震災や津波で親を亡くした子どもたちの心に寄り添うボランティア「あしなが育英会ファシリテーター」を、青森に1年に1人ずつ増やしていこうと考え「青森にあしなが育英会ファシリテーターをふやしてくプロジェクト」をはじめました。
2016年、坂本小雪さんがtovoから初の「あしなが育英会ファシリテーター」となりました。昨年12月、工藤千穂さんがtovoから2人目のあしなが育英会ファシリテーターとなりました。そして、今年、2018年11月、川畑富美子さんがファシリテーター養成講座を受講し、ついに、tovoから3人目のあしなが育英会ファシリテーターが誕生しました。今回は川畑富美子さんからのレポートです。

2018年11月3日(土)～4日(日)の2日間、盛岡で開催された「ファシリテーター妖精講座」もとい「養成講座」を受けてきました。

「毎年、1人ずつ青森のファシリテーターを増やしたい。」tovo代表からその思いは聞いていましたが「親を亡くした子供さんと接すること」って学問的な知識も実践経験もない自分には少々荷が重すぎる…正直そう思っていて、今回もお声かけ頂いた最初は、施設の勤務経験のある長女に講座参加者募集の話をして娘が参加予定でした。が、締め切り間際に都合が悪くなり、せっかくのチャンス、ド素人の私でも何かの役にたつのなら…と手を挙げて参加した次第です。

なにしろ、「ファシリテーター」「グリーンケア」…横文字が苦手で言葉の意味すらなんと

なく、ざっくりした雰囲気しかわかっていませんでしたからめっちゃめちゃ不安で、でも、居ないよりはマシだろうし、やる気と根性さえあればなんとかなる!そう思って一番乗りで会場へ乗り込み、初対面のスタッフさんにも続々と到着された参加者さんにも 明るく元気にご挨拶!親しくならなくちゃ!そんな私の力み具合をスタッフさん方はちゃーんと見透かして、気を配ってくださったように思います。

この時の参加者は、大学生さんが多かったですが、下は18歳から上は60代?まで年齢層も幅広く、東北が多いけど函館や東京からもいらっしゃいました。あしなが育英会の奨学金を受けている方も多かったようです。

1日目、まずは初対面の参加者同士がお互い



を知り、打ち解けるため自分の呼ばれたいニックネームで自己紹介。そして、大事な基本ルール「他人を大事にする、そのためには自分のことも大事にする」、「言いたくないことはパスしていい」、「自分の経験と他人の経験をごっちゃにしない」などを説明されます。

印象に残っているのは、初対面の緊張感漂う空気のなか、打ち解けるきっかけのために短い時間のなかでなるべく多くの人に、Q&Aを繰り返しBINGOを完成させていくゲームや、2日間のプログラムの中で 何度も丁寧に今の自分の状態は?(自己確認)どう感じているか?を繰り返し順繰りに話していくなかで、自分のなかで変化していく気持ち、本当の自分の気持ちを言葉にして人へ伝える実践でした。

「自分の状態を話す」これが結構難しい。いい子を演じる必要はない。ホントの自分のことを解ってほしいという気持ちと、どこまで自分をさらけ出せばいいのか、出しても大丈夫なのか?自分がつらくなるからこの話は今は言いたくないのにな。モヤモヤとしたその不安はきっと、これから相対する子供たちの気持ちでもあって。

大事な人を亡くす、という共通項はあっても、その経験に対する反応は一人ひとり様々に違って、ファシリテーターはその子話を勝手に先走って解釈したり、言葉を置き換えてしまわないように、と何度も繰り返し教わりました。

これがね…、日常会話では沈黙しないよう、仲良くその場が盛り上がるよう、話を横取りして広げてしまいがちな自分にはかなり難しいことで(ここへ来る前に考えてた方向とはだいぶ違うな…)脳内に流れた歌声「違う♪違

う♪そうじゃ そうじゃな—い」by鈴木雅之

相手の話した言葉を繰り返す・表情やエネルギーを揃えていく「リフレクション」というスキル。鏡のように映し出すことで、相手に自身の状態を客観的に気づかせることができると学び、子ども役とファシリテーター役を交互に実践した時、新鮮な感覚に陥りました。自分が発した言葉を人の口から聞くと(日常生活ではまず、未経験の人が殆どと思いますが)毛糸がすっとほぐれたような、思考がすっきり明確になったことを自覚できたのです。沈黙には、そのまま沈黙を。ただし、受容の沈黙で。

これは言うてはいけない例として教わったのが「解るよ」「そのうち、楽になるよ」「あなたはまだマシ」ああ…知人友人にこれまで散々、言いまくってきたセリフ…。

ファシリテーター～支援する人～。自分なりに思ったのは一人一人の凸凹にふんわり優しく寄り添う存在。それは柔らかい、暖かい毛布のようなものになることなのかなあと思いました。

2日間の体験は、とても新鮮かつ密度の濃い時間で、肩に入っていた力も抜けて自分自身が癒された感覚もあり、終わる頃にみんなのことが大好きになっていました。講座終了後(きっとまた、どこかの会場でこの方たちと会いたい)強くそう思いました。

まだファシリテーターの若葉マーク、ペーペーのひよこではありますが、これから子どもたちのなかに寄り添っていけるよう、歩み始めたいと思います。もし、この活動に興味を持ってくださった方がいらっしゃいましたら…ごいっしょにAlways with youしませんか?

